



だより

— つながれ ひろがれ —

第130号
 特定非営利活動法人
 環境パートナーシップちば

TEL : 090-8116-4633
 E-mail : info@kanpachiba.com
<https://kanpachiba.com/>

第24回エコメッセ2019 in ちば 開催報告 ～みんなで取り組むSDGs～

エコメッセちば実行委員会 桑波田 和子

日時：令和元年10月20日（日） 10:00～16:00

会場：幕張メッセ国際会議場2階・屋外

来場者：10,500人 出展団体：114（内訳）市民団体：40 企業：36 学校：12 行政：26

ボランティア：92名 実行委員：40名

主催：エコメッセちば実行委員会

「エコメッセ2019 in ちば」は、10月20日におかげさまを持ちまして、大盛況のうちに終了いたしました。ご来場、ご出展、ご協賛、当日ボランティア、実行委員の皆様、ご支援、ご協力をいただき、感謝申し上げます。会場は「チームエコメッセ」とまとまりを感じる見本市になりました。近日台風などによる県内のイベントなどが中止になる中、エコメッセちばが開催でき、改めて感謝しています。

以下は会場の様子です。

会場は開会式から、親子連れや学生の姿も見られ、閉会の4時まで場内はにぎやかでした。

■出展ブース：子どもたちが育てた野菜の販売、マイクロプラスチック、PCBの処理、エネルギー、自然環境、障害の方へのサポートなど多様な取り組みを、体験を通して学べる場が多く、にぎわっていました。

■実行委員会ブース：SDGs年表に出展団体に取り組んでいるSDGsの今後の目標年を提示する。子ども達が、SDGsについて理解できる「SDGsの木」に挑戦。フードドライブは去年より多い20.9kgのご協力があり、食エコレシピは応募の中から参加者が一押しを選びました。千葉市は、ボランティア活動に参加するとポイントがたまる「ちばポ」を紹介しました。

■エコステージ：出展団体のアピールのほかに、オール千葉おもてなし隊のちばの紹介、千葉県環境大使 野口健氏によるトークショー（千葉県主催）など、多くの方が聞いていました。

■国際会議室ではオリンピック・パラリンピックの体験ブースを設け、サーフィン、ボッチャ・

VR フェンシング、スマートフェンシング・ゴールボール・車いすバスケットを、こどもから大人まで体験されていました。対応する実行委員は各競技に精通しておらず、開催までに勉強をして臨みました。その状況で、学生団体「おりがみ」の協力に大いに助けられました。

また、昨年好評の「JICA 吹奏楽団の演奏」は、多くの方が聞いていました。

■202 室の午前：JICA による海洋ごみの体験ワークショップ。午後：NPO 環パちばの「ちばSDGsフォーラム～私が取り組むSDGs～」が開催され、SDGsについて身近に考える機会を提供しました。

■201 室：「第15回 JOC スポーツと環境・地球セミナー」（JOC 主催）では、オリンピック2020への環境に関する取り組みなどを知る場の提供ができたのではと思っています。

■台風15号災害支援基金への募金13,031円を（公財）ちばのWA地域づくり基金にお渡ししました。

実行委員会では、報告書作成に続き、「エコメッセ2020 in ちば」の開催に向けて準備が始まりました。「エコメッセ2020 in ちば」は、2020年11月1日に幕張メッセで開催します。今後ともご支援・ご協力よろしくお願いいたします。



エコメッセ2019in ちばに出展しました。

私たち「環境パートナーシップちば」は、いま大きくスポットを浴びているテーマ、プラスチックの環境汚染に関する内容で出展しました。昨年もプラスチックをテーマにしましたが、主にマイクロプラスチックに着目した内容でした。今回は、日常生活の中でいかに大量のプラスチックを使っているかということについて実感してもらおうという内容で構成しました。タイトルは『賢く使おうプラスチック～プラスチック洪水を見直して～』です。

「減プラスチックチェック」では設問 10 問で、自分が行っている項目にシールを張ってもらいました（【資料】参照）。スーパーでの買い物時にレジ袋を断る、マイバッグを持参することは、男女大人子供問わず結構浸透しているようでした。台所で使うスポンジ類、洗濯ばさみや衣類用ハンガー、衣類等は、天然素材の物ではなく石油素材のプラスチック製の物を使っている人が多かった

です。

屋外に落ちている小さなプラごみ、例えば靴の泥を落とす玄関マット、公園の遊具等のはげ落ちた塗装、道路の表示塗料、ビニール紐等それぞれの破片を小瓶にいれ、元の物が何かを考えてもらうクイズも関心をひきました。他に学術資料、浦安三番瀬で拾った色とりどりのプラごみの観察、ある家庭から1日に出るプラごみ、主に食品や生活用品のパッケージの重さを測る体験、見慣れたプラごみでいっぱいにしたビニールプールも展示しました。

あれもプラ、これもプラ。便利で安価なプラは生活の隅々にまで入り込んでいますが、その「ありがたい」にも「末路」にも我々は無頓着です。このまま無関心でいいのでしょうか？ブース訪問者はしみじみとプラスチック洪水に驚き、感じ入っているようでした。（文責 中村明子）

【資料】問いと、回答者数(子供、女性、男性)

No.	減プラスチックの行動	子供	女性	男性
①	買い物でレジ袋を使わない	15	47	23
②	いつもエコバック	12	44	17
③	マイボトル	19	34	12
④	プラスチックのストローは使わない	14	33	17
⑤	シャンプー等は詰め替え用を利用	22	46	24
⑥	食器洗いには天然素材のもの(たわしやへちま等)を利用	9	12	4
⑦	パック詰めではなくバラ売り野菜を購入	9	18	9
⑧	スーパーのロールポリ袋(生ものなどをさらに包む)は、使う分だけもらう	14	47	20
⑨	洗濯ばさみ、ハンガーはプラ以外のものを使っている	8	11	5
⑩	衣類はマイクロファイバーの出ない天然素材の物を選択	6	15	10



全回答者数は、子供 22 名、女性 47 名、男性 24 名と推測。子供の場合は自分自身の行動と家庭の生活スタイルが不可分だと思われる。

全体的に①レジ袋、⑤詰め替え用、⑧ロールポリは 9 割、②エコバックは 8 割と、かなり定着している様子であった。⑥食器洗いや⑨洗濯ばさみ、ハンガーは天然素材を使っている人は少なかった。天然素材品の商品が少なく高価であることが主な原因ではないか。パッケージ野菜の購入者が多いのも、販売店側の戦略に乗っている感が否めない。製造者と販売者の環境に配慮する努力もまだまだ期待したい。

そもそもエコメッセちばに来場し、環パのブースに立ち寄る人の環境や社会問題に対する意識は平均以上だと思われる。無関心の人たちに関心を持ってもらう工夫が、やはり今後の課題の一つになるだろう。

ちばSDGsフォーラム開催のご報告

10月20日(日)、幕張メッセで行われたエコメッセ2019 in ちばの会場内において、「ちばSDGsフォーラム ～私が取り組むSDGs～」をNPO 環パちば主催で開催しました。

初めに、当団体のメンバーでもある神田外語大学言語メディア教育センター長准教授の石井 雅章氏に、「SDGsを自分ごと化するための工夫」をテーマに、SDGsの概要説明と演題について講演していただきました。

その後、石井氏をコーディネーターとして、事例紹介とパネルディスカッションを行いました。木村 由佳氏(元青年海外協力隊)には『途上国での環境教育』として、ラオスにおける環境教育や生ゴミコンポスト活動についての事例を、遠藤 美映氏(合同会社HANA 代表社員兼BSC 実行委員会理事)には『ベイタウン・SDGs・クリエイションの活動』として「幕張ベイタウン DOG FES 2019」に参加したご経験を、手塚 幸夫氏(房総野生生物研究所)には『いすみ市での生物多様性の主流化とSDGs』として、いすみ市が進める有機稲作と学校給食の全量有機米化の取り組みや、食農教育と環境学習を一体的に捉えるプログラム

の開発などを、それぞれの立場でのSDGsの視点を取り入れた事例として紹介していただきました。

当日は飛び込みで参加された方も多数おり、定員30名のところ最終的に52名の参加で、椅子が足りなくなるほどの盛況でした。終了後のアンケートでは、「フォーラムを受講して自身に変化した点があったか」の問いに多くの方が「あった」と回答されていたことから、「SDGsについて知るとともに、それぞれの立場からSDGsに取り組むヒントを得てもらおう」という今回のフォーラムの目的は、ある程度果たされたのではないかと思います。(文責：荒川 薫)



SDGs達成のためのESD人材育成事業

SDGsを進めるESDプラットフォームづくり(第2回)報告

「SDGs達成のためのESD担い手育成事業」の一つである「SDGsを進めるESDプラットフォームづくり」の第2回を10月7日に千葉市市民会館で開催しました。参加者は、ファシリテーター(石井雅章氏)と19名でした。

内容は、まず、2018年度、2019年度第1回目をふりかえり、お互いに情報を共有した後、ESDプラットフォームの「目的」「機能」「条件」「運営」の4つのグループに分かれ、ワールドカフェ&シグソー法でワークショップを行いました。

4つのテーマを基に4グループに分かれ、それぞれのテーマごとに協議します。そのあとグループ2名を残し、他のメンバーは気になるテーマに参加して、グループの説明を聞いた後、追加の意見を出して協議します。その後はもとのグループに帰り、出かけたグループの良い点などお土産を出します。この方法で、数回他のグループに参加した後、グループのテーマについて整理しました。結果は、以下のようになりました。

「目的：何のためのプラットフォーム?」：多様な主体との共生・協働。情報の共有。マッチングの窓口、他。

「機能：何をやるプラットフォーム?」：学びの機

会・場のコーディネート、マーケティング、他。

「条件：プラットフォームには何が必要?」：組織のルール、拠点、資金、協力者、他。

「運営：プラットフォームをどのように動かす?」：人材を活かしネットワークでつなく、地域の特徴を活かす、他。

ESD地域リーダーが活躍すること等を通して、地域の学びが持続可能な視点を持ち、行動する人が増えることを願います。実効性のあるプラットフォームづくりに向けて、第3回目はプラットフォームの具体案を協議します。

(文責：桑波田 和子)



第3回 ESD 地域リーダー育成報告

「ESD 地域リーダー育成事業」の第3回(成田会場)が、11月11日に成田商工会議所で開催されました。

第2回でファシリテーターやサポーター及び受講生からいただいたアドバイスを受けて、各自でブラッシュアップしたプログラムを再提出していただき、第3回でさらにブラッシュアップです。

この日は、船橋(千葉)会場の方も含めて8名の参加がありました。

前半のグループワークでは、2グループに分かれて説明と意見交換を行いました。後半の全体発表では、1人7分間の発表(プログラムの説明)の後、7分間でサポーターや受講生のアドバイスをいただき、プログラムの目的・目標がより鮮明になり、実際の活動の流れがわかりやすく整理できました。

この日の参加者のプログラム名は、一歩から始まる環(わ)／環境活動家グレッタ・トゥーンベリさんとめぐる“#未来のための金曜日”の旅／アップサイクルで知るモノの価値／可燃ゴミを減らそう！生ごみ堆肥化プロジェクト／こどもたちの力を借りて地球を救おう！こどもは世界を癒す創造力の種／環境活動と市民活動のコラボ！生ご

み堆肥化と地域の関わりを考える／牛乳パック紙すきに挑戦！／防災からたどるSDGsの道、と多彩で、どれも興味深いものです。

第3回船橋(千葉)会場の11月24日にも同様の活動を行います。2月3日午前中はプラットフォームメンバーへの発表会となるため、12月中の提出を目指して、みなさん、再度の挑戦をされることになります。作成されたプログラムは、昨年度まとめた「ESDプログラムガイドブック」に追加収録し、ガイドブックをより充実させます。



(文責：横山 清美)

第2回 SDGs 公開セミナー報告

「SDGs 達成のためのESD担い手育成事業」の一環として、～SDGsを自分ごと～というテーマで11月16日に千葉市生涯学習センターにて、第2回公開セミナーを開催しました。

最初は、神田外語大学の石井雅章准教授に「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダについて」という講演をしていただきました。

2015年に国連本部で開催された国連持続可能な開発サミットの成果として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ(行動目標)」が採択されました。この中で具体的な目標(17の開発目標：Goalsと169のターゲット：Targets)が挙げられており、この部分が色とりどりの17のアイコンやSDGsバッジとして有名になっていますが、今回はこのアジェンダのエッセンスである「前文」について、丁寧に解説していただきました。

Transforming(取り繕うのではなく本気になって変える)／Development(経済的だけでなく精神的、社会的、文化的に豊かになる)／Sustainable(他の人たちのニーズを損なわない形で、私たちのニーズを満たし続ける)というような言葉の説明により、実感を持って理解するこ

とことができました。

続いて、SDGsを『自分ごと』として取り組んでいらっしゃる3人の方の発表です。

- ・鎌倉市SDGs未来都市計画について(鎌倉市共創計画部 比留間彰氏)
- ・間伐材の有効活用など企業の取り組みと地域の関わり(株式会社ソーケン製作所 斎藤弘喜氏)
- ・「市民が愛着と誇りを持って済み続けられるいすみ市に！」移住者と地元民の活動(NPO法人いすみライフスタイル研究所 江崎亮氏)

また、当会代表理事の桑波田和子も、SDGs達成のためのESD人材育成事業を紹介しました。

参加者は42名で、自治体や企業の方に事例紹介していただいたので、県内の自治体職員や企業の方が何人も聴きにきてくださいました。



(文責：小倉 久子)

「海洋ごみとマイクロプラスチックについて考える」学習会参加報告

日時：令和元年11月9日(土) 14:00~16:00

会場：きぼーる15階中央区社会福祉協議会ボランティア活動室 1.2

講師：早水輝好氏 国立環境研究所環境リスク・健康研究センタープロジェクトアドバイザー、
茨城大学客員教授

海洋へのプラスチックごみの問題は、世界的な取り組みが必要とされています。環境パートナーシップちばでも、エコメッセ2018・2019と2年間のブース出展や、河川から流れるマイクロプラスチックについての専門家によるセミナーなど開催してきました。また、海岸のゴミについて、国が進める「プラスチックスマート(Plastics Smart)」に登録して活動している当会の会員もいます。

標記の学習会は NPO 法人ちば環境情報センター主催で行われ、参加してきました。講師の早水氏は2003年~2005年に千葉市環境保全部長として関わられた後、環境省でご活躍され、現在は環境省参与(非常勤)として海洋プラスチック問題などに関する国際会議にも出席されています。

講演内容は、①海洋汚染への国際的な条約、国内の法律及び最近の国際動向。②国内でのマイクロプラスチックの調査。③第4次循環型社会形成推進基本計画、プラスチック資源循環戦略など、海洋ごみに関する環境省の施策。④今後の方向性と課題。でした。今後の課題の中で、地球上の海ゴミの分布・集積状況についての科学的知見の不足、「焼却は悪」の雰囲気の中でサーマルリサイク

ル(熱回収)をどう取り扱うか、などが気になりました。

講演後の意見交換では、プラスチックごみの処理、身近な暮らしとの関わりなどさまざまな意見が出ました。その中で早水氏個人の意見としておっしゃった「家の中で多くの物を所有している現実も見直す」に、同感しました。

(文責：桑波田 和子)



千葉市検見川の浜のマイクロプラスチック
(○の中) 2016年10月16日

朝日地球会議 2019 を聴講してきました！

10月14日(月)~16日(水)、朝日新聞社主催の国際シンポジウム「朝日地球会議 2019」が東京都内イイノホール、帝国ホテルで開催されました。今年のテーマは「ひらかれた社会へ 多様性がはぐくむ持続可能な未来」。プログラムの内容も多岐に渡っていてどれも興味深いものでしたが、その中で、最終日のパネル討論『森のSDGs 保全・再生から持続可能な消費まで』、『北アルプス 森と水の恵み』、特別講演『水と生きる 持続可能な社会への挑戦』の2部門を聴講してきました。

『森のSDGs ~』は、山本 百合子氏(イオン環境財団 事務局長)、末吉 里花氏(エシカル協会 代表理事 日本ユネスコ国内委員会広報大使)、速水 亨氏(速水林業代表 FSC ジャパン副代表)が登壇し、森林保全・再生のさまざまな事例や課題、消費者教育の重要性、さらには人権問題など、幅広い視点での討論がなされました。「木を植える

だけでなく、森林の周辺に暮らす人たちのなりわいを理解して取り組むことが、持続可能な社会をつくる」という話が印象的でした。

『北アルプス 森と水の恵み』では、牛越 徹氏(長野県大町市長)、釈 由美子氏(俳優)が、持続可能な森林保全と水源涵養の重要性、環境保全の実践例について話し合いました。

『水と生きる 持続可能な社会への挑戦』では、福本ともみ氏(サントリーホールディングス 執行役員)が、次世代環境教育「水育」プロジェクトを行っているサントリーの取り組みの中から、水とプラスチックについて講演しました。

多分野で活動されている方々の話を直接聞くことができ、視野も広がるため、来年も聴講したいと思っています。なお、朝日地球会議 2019の概要を知りたい方は、以下のサイトをご覧ください。
<http://www.asahi.com/eco/awf2019/>

(文責：荒川 薫)

「東京湾大感謝祭 2019 に参加」

2019年10月26日(土)に東京湾大感謝祭メインイベント会場(横浜赤レンガ倉庫)に東京湾再生官民連携フォーラムのプロジェクト活動の一つ「東京湾の窓」の紹介コーナースタッフとして参加させていただきました。

「海にいいこと、やさしいこと、はじめよう!」をテーマに、10月17日から27日の中の5日間で、来場者数が10万1千名、出展者数が全247社・団体/277小間という、エコメッセちばと比べておよそ10倍の規模になっていました。毎年大勢の来場者があるイベントですが、今年は特に天候も良かったためか、途切れない来場者でした。

今年は「SDGs 東京湾コーナー」が設けられ、企業や市民の取り組み展示、COOL CHOICEの活動紹介などが実施されました。

以下、全体概要は、報告書から一部抜粋させていただきます。

ステージでは、オープニング(写真:チーバ君も参加!）、海の学び場、東京ワンダー下水道、魚の塩釜焼、東京湾はエンターテイメント、BLUE CAMPライブなど全35プログラムの実施で賑やかに開催されました。

展示企画は、SDGs 東京湾(会場入り口の迫力ある展示写真)、江戸前の恵み、東京ワンダー下水道、レジャー・ツーリズム、WONDER ACTION CAFÉ、江戸前角打ち&キッチンカー、ふるさと納税・物産・くらしフェア、TOKYO ONE CRAFT、BLUE CAMPの全9企画。

海上イベントも、水上飛行機離着水、海の救助訓練、清掃兼油回収船べいくりんデモ、第二海堡モニターツアー、親子ハゼ釣り教室、ボート・ヨット体験乗船会、インナーハーバーSUPレース、赤レンガCaféクルーズ、本牧ガントリークレーン見学クルーズ、江戸前屋形船の、全10プログラムが実施され、東京湾沿岸住民3000万人に向け、官民連携の機動力が結集したイベントでした。

(文責:横山 清美)



台風15号が南房総を通過してから2か月

南房総市大房岬自然の家所長・NPO 法人千葉自然学校 神保 清司

台風15号が南房総を通過してから2か月が経とうとしています。

私の暮らす南房総では、相変わらずブルーシートの掛かった家屋と潰れたビールハウス、そして幹折れた木々のぶら下がる山々の景色が悲しいかな当たり前となりつつあります。

その後も台風と豪雨にさらされ、被災地は広域化して、いつ終わるともしれない過酷な復旧作業の毎日に、心身ともに疲弊されている方も多いことでしょう。

私たちの拠点である南房総富浦町の大房岬(たいぶさみさき)でも、風倒木の処理は相変わらず続いています。そんな中でも、やむなく処分した桜の丸太からは新たな芽生えが!一部の根がかろうじてつながっている倒木も青々とした葉をつけています。自然界の何とかたくましいことでしょう。

そして町の花畑に広がる富浦の名産品「房州枇杷」の花畑にも多くの風倒木が倒れ、まだ人の進入すら難しい場所も。日々の営みを何とか最低限立て直し、そこから始まる枇杷畑の風倒木処理は、心身に重く押し掛かる重労働です。

私たちは公園の復旧と並行して、枇杷山の復旧支援として山に入り風倒木処理のお手伝いをして

います。先祖代々守ってきた枇杷の古木が、倒木によって折れ裂かれたり、根こそぎ横倒しになっている姿は、本当に心が痛みます。

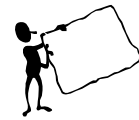
農家の方たちは、「仕方ないね。またお日様に向かって伸びあがってくれるようにしてみようか。」と前を向いていらっしやいます。

自然への畏敬の念とは、現代的暮らしの中ではなかなか実感できるものではありません。私も被災して初めて大自然の恐怖を感じ、同時に自然のたくましさを実感しています。この経験を次世代へつなぐため、自分のすべきことを模索する毎日です。



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 53 —

おききました！ この人・この団体



株式会社ソーケン製作所

齋藤 弘喜

株式会社ソーケン製作所は、都内を中心とした内装工事を行うソーケングループの木工造作工事及び特注家具の制作部門として、昭和60年に設立され、30年以上の実績があります。

現在20代から70代までの10名のモノづくりのプロがお客様の要望に丁寧な対応でお応えします。『木材を扱い企業として、廃材や間伐材の有効利用』を考え、社会貢献につながる活動を考え『木の再生プロジェクト』を2010年に立ち上げスタートしました。

また、地域の環境フェアにも出店し、自社をアピールすることで、更なる広がりを作り、活動を続けています。

東日本大震災では、企業としてできる支援活動だけでなく、活動に共感を持っていただいた企業・団体と一緒に支援活動することで、一日も早い生活に戻れるように支援活動を継続し社会貢献活動は多岐に渡って広がっていきました。ここ数年の自然災害では、場所に関係なく出来る支援活動を続け多くの方々と一緒に苦難を乗り越えられるように、支援活動は続いていきます。



『関わる全ての人が笑顔になる仕組み』をテーマに、廃材を利用した玩具を児童養護施設にプレゼントしました。更に、近隣の福祉作業所へ定期的に足を運び、自分たちは何をできるのか？を模索。結果、賃金の低さを痛感し、福祉施設で働く社員の自立や賃金アップの手助けになればと考え、間伐材を利用した商品作りの一部を委託しました。商品の売り上げの一部を使って施設の修繕につなげ、本業を通じて幅広く活動できました。



これらの活動は、通常業務とは違い活動の自粛も考えた事もありました。でも、『この活動を通じて人生を豊かにしてくれる』『人の視野を広げてくれる』『沢山のご縁から結果的に本業にも繋がる』。更に継続することが大切だと信じ、今後も色々な方々とのご縁を大切に活動して行きます。

会社の発展だけでなく、地域の皆様に愛される企業として更なる社会貢献活動が出来ればと思います。



間伐材商品

運営委員会報告

10月運営委員会

日時 10月10日(金) 15:00~18:10

場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・SDGs達成のためのESD担い手育成事業 (ESD地域リーダー育成事業) 9/15・30
- ・基金助成活動中間コンサルテーション 9/27
- ・プラットホームづくり 10/7
- ・いちはら環境フェスタ出展 9/21 →中止
- ・地域ESD活動拠点地域意見交換会 9/23
- ・だより129号発送 ・その他

【協議】

- ・エコメッセちば出展 10/20
- ・SDGsフォーラム開催 10/20
- ・SDGs達成のためのESD担い手育成事業
- ・Eポート千葉大会 10/13 ・だより130号
- ・印旛沼環境フェア 10/26・27
- ・ちば環境再生基金・地球環境基金 応募の検討
- ・日本環境教育フォーラム 10/26
- ・いちはら市民大学環境コース ・その他

11月運営委員会

日時 11月14日(木) 15:00~17:40

場所 TENT 幕張

【報告】

- ・SDGs達成のためのESD担い手育成事業 ニュースレター6号・チラシ発送 10/17
- ESD地域リーダー育成事業 11/11
- ・エコメッセちば出展 10/20
- ・ちばSDGsフォーラム 10/20
- ・Eポート千葉大会・印旛沼環境フェア →中止
- ・令和元年度第2回理事会 11/2 ・その他

【協議】

- ・SDGs第2回公開セミナー
- ・SDGs達成のためのESD担い手育成事業 11/24
- ・ちば環境再生基金応募 12/15
- ・地球環境基金次年度応募の検討
- ・いちはら市民大学環境コース 11/12・26・12/10
- ・ESD推進ネットワーク全国フォーラム 12/20・21
- ・浦安市中央公民館環境講座 20年2/7・21・3/6
- ・1000カ所ミニ集会(八千代) 11/29
- ・環ぱちばHP旧「ひろば」の削除について ・その他

お知らせ

ミニピックス展 十二支にちなんで -子年-

日時：2019年12月21日~2020年1月19日

会場：千葉県立中央博物館 2階ホール

入場料：一般300円 高校生・大学生150円

中学生以下・65歳以上の方・障害者手帳等
をお持ちの方は無料

内容：十二支の動物にちなんだ毎年恒例のお正月の展示です。令和2年は『子』すなわちネズミに関係する名前が付けられた様々な生きものや化石、『子』に関わる資料を通じて、生物の多様性と生物と人間の関わりについて理解を深め、お楽しみいただけます。

<http://www2.chiba-muse.or.jp/www/NATURAL/index.html>

環境教育関東ミーティング2019

「集まれ！環境教育のなかまたち」

~コラボレーションで新しい未来を作り出そう~

開催日：2020年2月29日(土)~3月1日(日) [1泊2日]

会場：八王子セミナーハウス

(東京都八王子市下柚木1987-1)

主催：環境教育関東ミーティング実行委員会

共催：関東地方環境パートナーシップオフィス

対象：学生、個人、行政、企業、教育機関、NPOなど
環境教育に興味、関心のあるすべての方

定員：100名(先着)

参加費：16,000円

申込：10月1日(火)~1月17日(金)

詳細は環境教育関東ミーティング2019のHPをご覧ください。

<https://kantomtg.jimdo.com/>

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ

事務局：〒262-0006 千葉県花見川区横戸台21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

Tel：090-8116-4633

E-mail：info@kanpachiba.com

<https://kanpachiba.com/>

※会費や会員申し込みなどの情報は上記HPでご確認ください。